

安全目標に対する認識と 今後の活用のあり方

～ 主なりリスク管理者として ～

2019年11月9日

前原 啓吾

はじめに

「安全」の定義

日本の一般的な辞書

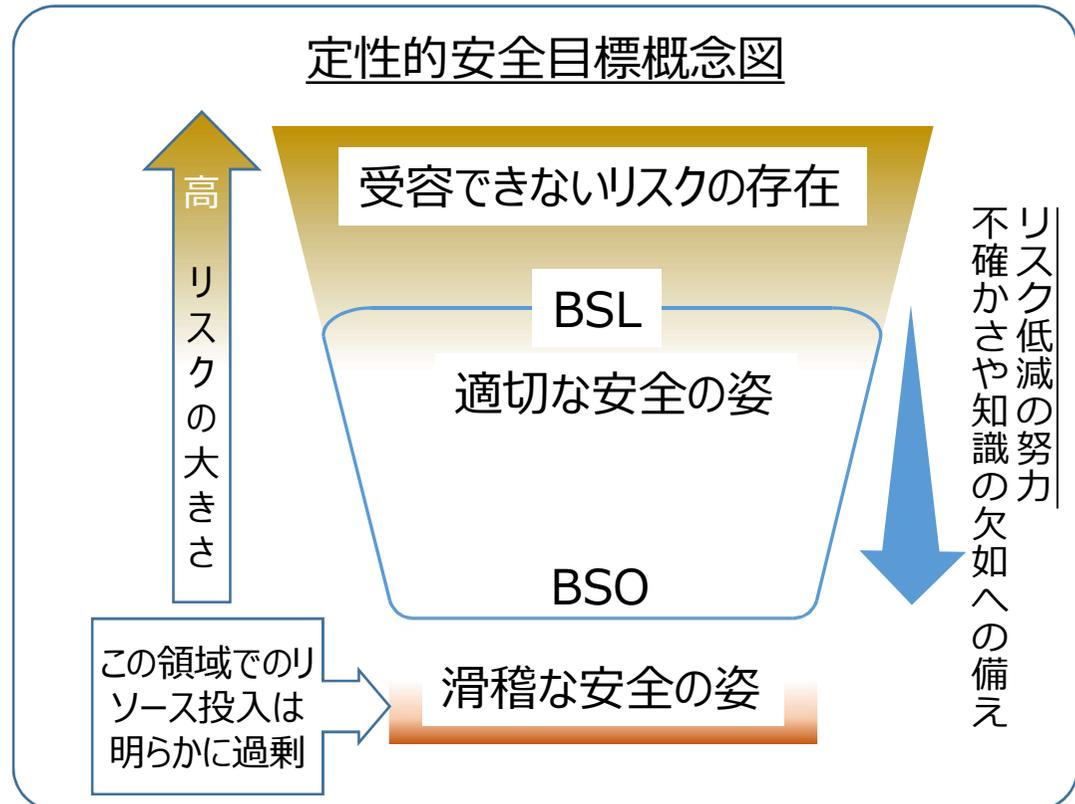
危なくないこと。物事が損傷・損害・危害を受けない、または受ける心配のないこと

ISO/IEC Guide 51

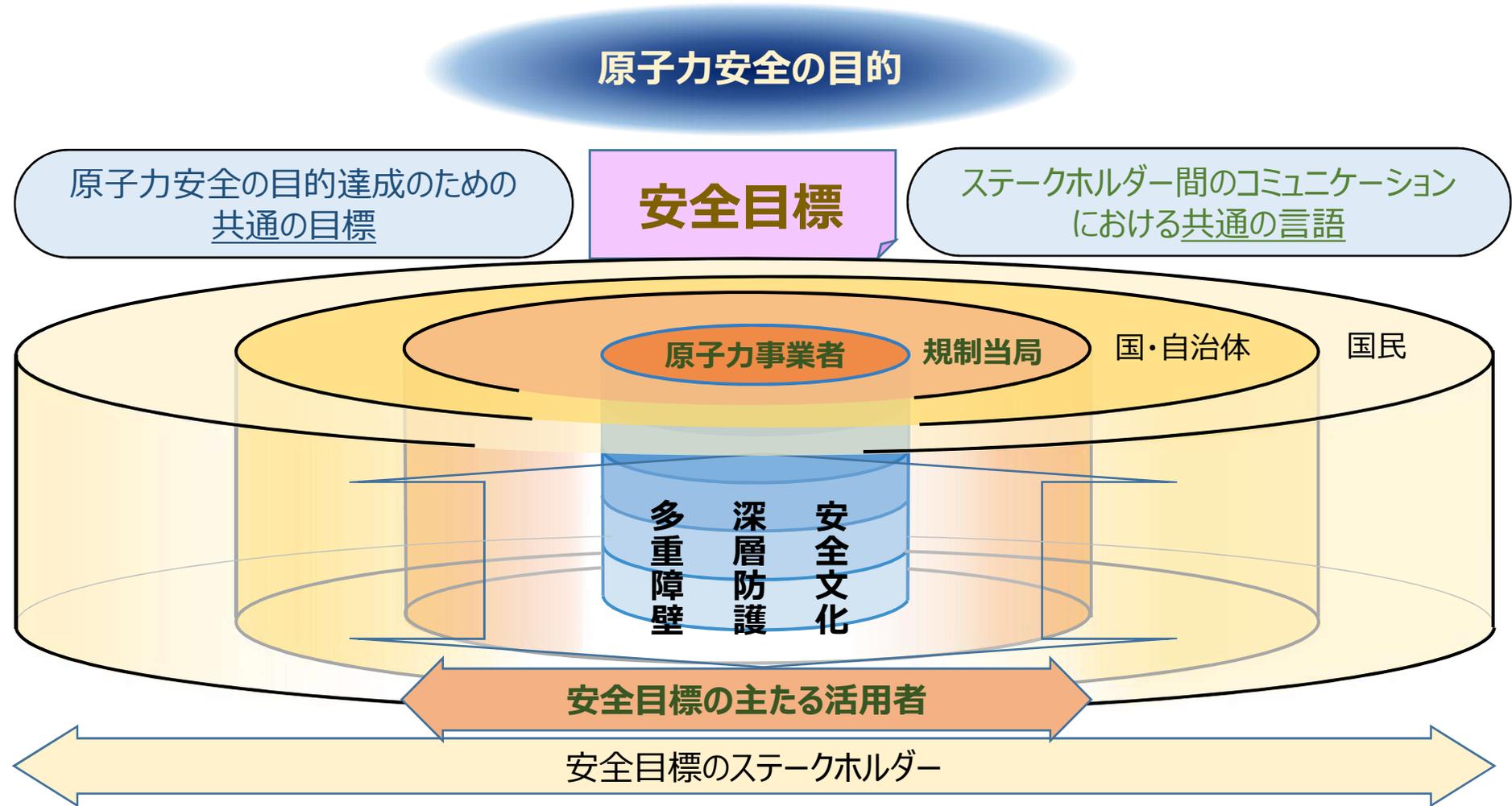
許容できないリスクのないこと

安全目標を策定することとは

- 科学技術を利用する上で、生じるリスクに対して、どれくらいの水準・リスクレベルを、許容しない／許容するかを明確にすること。
- 安全目標を活用することは、明確にされたレベルのリスクに向き合い、その範囲内に抑制しようとする。



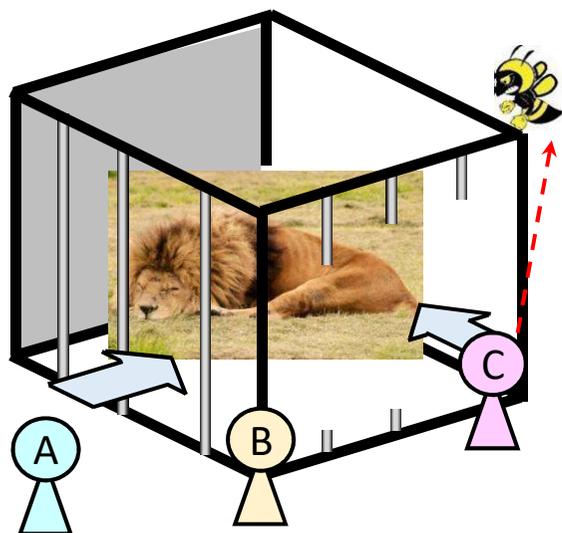
安全のための活動と安全目標のステークホルダー



- 安全目標のステークホルダーは、**全ての国民**
- その中でも、**リスク管理者である事業者と規制当局は、安全目標の主たる活用者**として、原子力施設のリスクを適切な水準内に抑制するために活用
- 全てのステークホルダーは安全目標を活用したコミュニケーションを実施

リスク管理の共通言語としての安全目標

- 晒されているリスクは同レベルでも、その認識度合いは個人の立場や役割により異なる
- 特に、組織としてのリスク管理では、ステークホルダーが、リスク情報を共有することはもちろんのこと、同レベルで認識・共有した上で、対処することが必要。



	A	B	C
認識の相違			
言語の相違			

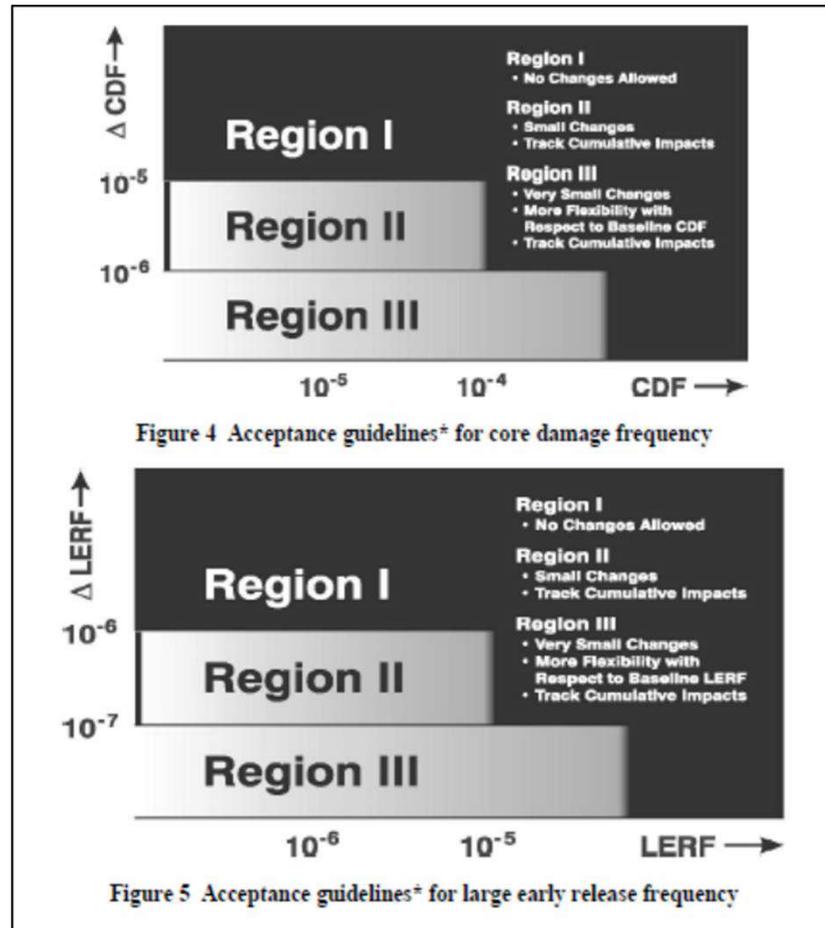
- 個々人で、得ている情報が異なる
- 同じ情報を得ていても、認識が異なる場合もある
- 異なる言語では、適切なコミュニケーションも困難

組織(または社会)としてのリスク管理では、リスク情報を共通言語により共有し、リスク認識の共有が重要

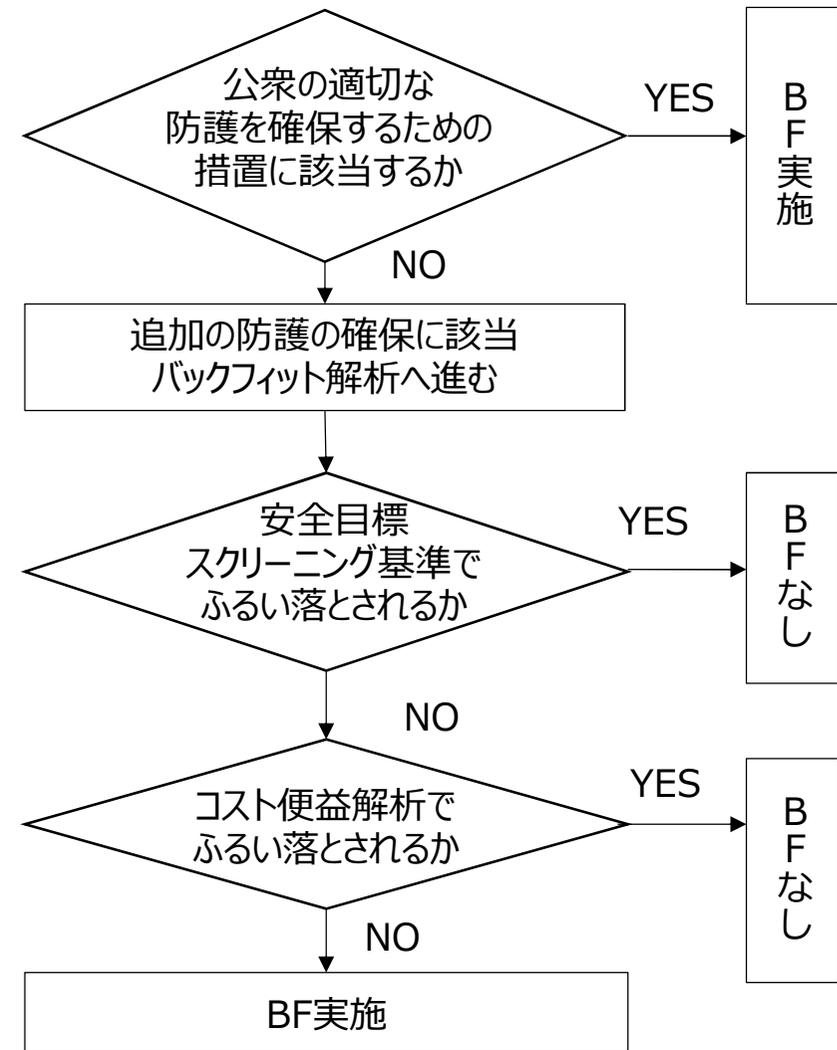
安全目標等の活用（米国での活用例）

原子力施設の運用(検査や試験)の見直しなど

バックフィット（BF）適否判定の基本プロセス



RI-ISIやRI-ISTなどへの適用



安全目標を活用するための留意点

1.活用方針の明確化

安全目標を活用するという方針を明確にし、ステークホルダーに対して、それを公知化すること。

2.指針・標準類の整備

共通の評価方法、共通の判断目安が必要。そのため指針や標準類を整備すること。

3.活用実績の積み重ね

まずは活用してみることが必要。その積み重ねが活用の仕組みをより良くする。

4.適切な不確かさの認識

不確かさを適切に認識することが重要。

5.評価技術の高度化

リスク評価技術の継続的拡張が必要。ただし、PRAの「完全神話」に陥ってはならない。使えろと考える範囲から使っていくことが重要。

NUCLEAR REGULATORY
COMMISSION

10 CFR Part 50

Safety Goals for the Operation of
Nuclear Power Plants; Policy
Statement; Correction and
Republication

AGENCY: Nuclear Regulatory
Commission.

ACTION: Policy statement; correction and
 republication.

1. Change meets
current regulations
unless it is explicitly
related to a
requested exemption
or rule change.

2. Change is consistent
with defense-in-
depth philosophy.

3. Maintain sufficient
safety margins.

Integrated
Decisionmaking

5. Use performance-measurement
strategies to monitor the
change.

4. Proposed increases in CDF or
risk are small and are consistent
with the Commission's Safety
Goal Policy Statement.